



明治新刊
及内是夫郎海集

3869
108



軍港立園



大正七年三月廿一日
室井平藏氏贈

序



一、軍港立園の意義
 二、軍港立園の歴史
 三、軍港立園の現状
 四、軍港立園の将来
 五、軍港立園の結論

割
3942

船が奴船つゝ寂とふら
ひのあいけきどはけてん

(二)

似たりや

空屋のテッ雅川岩場を
あはせひけきど三田の

之度のあめ

登善ろぐ丸新軍一
工、愛、裂て中

燐ひ

孫子も産衣巻りて交ても
やり年向ケり偶適のおお

振をい

年母帰りが壺新
ヲ、先生の紙中

(ホ)

はいやんと

のり者ふる古でおまうすナマ
とけふ死ふ子けじや理冊

ぼくの

持余を大己交え

おの伯父をんす甘若おせ

惚たの法

空地もか能一内井たて
石の敷りりもきなん

わり

あまづらんワイおの店も

下脚履らうて足な力み

おい

声雲とせど一席貸せ

長柄の古奇も知らうら

徳園はてや老のいろ

うろまゝうらておひ懸く

① 別世界

本家もあやういづれやケ

花見うらあがとりやうら

へさうら

さう先指から立きたら

母をへ附けておひておや

徳の徳玉



柳でく

らり

のが

おモや中なるはる

何愛やらら

時の運かのそぶざらけど

供も立派お遊ばさうらも

あらら向けと声なき代徳哉
妹も姉もあらずや怒も
こまらんく

雙のまがもたまにあつて
新つて来た自己トやま
ごのうれて

ありの徳一と兼取
引合をんもの下職
隣り

借の遠縁の法外より
慈者ぬえそお懐口の
徳の孤まらぬ

夢をまけときおし中ずと
毎晩貸しそみふおも

⑦

ちらくく
有ロイ中不讀あ字が
口争も控へるもの

愛生ぬ
半一袋タロカ
何ほめらして居るあらん

新し仕年一から活字及
よめる延びを新おとら

⑧

かみか
孫之助新まの下舞の鼻
お乳がらんとおらんやら

友刀はいつい
竿も吹して釣り垂ら

毒信て
 門通るにひかえらす
 後を成へたらあらしや
 大毒り
 酒をくねたら小便をら
 殺げよらさつみらんやが
 治り
 桑りす掃いとる毒るで
 けしめてあのをらさむも
 おひのかり
 怪金借りよはしるるも
 家屋でくらの里敷河で
 鬼
 ばつと火どけとあらのが

舞ふ嫌 家ごう毒ひまき
 ヲ、おらー
 志業 業をまきとまきと子ど
 中へはてや酒音んで
 ⑦ 狼の家わら
 毒も切らむん屋の毒を
 骨 骸おらさむ 家さん
 ころや
 薬み拾それひか
 門ふ大勢 うち入るの
 ころき
 毒あいや 乳が下タの毒
 ずらぐ 石盤 紙立ても
 若い

けまきや煙根をいふまやのに
 齒ををまは痰りのら
 わりらん
 其ゆびだけハマア折ツリか
 どちちち煙タネらおまきやら
 福フクひもサネ年ネン
 庭ニハのまのめんン一ツボ破ツボも
 物モノ那ナのチ物モノ表ヘ奥ウラして
 紙シ屋ヤくら
 然シカ風フエ呂ロ磁ジちて後ゴ家ケさんも
 うやんやヤ岩イおウらんり
 紫ムラサキ形カタか
 種タネぬりトよク井イ戸ド増バツを
 筆フデも婦メ人のメらゴ似ニせセ

(カ) 煙カいシく
 何ナニがガ塵チ石シをヲ後ゴ家ケまマの
 妻メあハいハらんン春ハル家ケでモ
 糸イトのノ香カ
 たのノしンでシ外ソトまマらラ書カ



其の^{ソノ}あ^テえ^ト、千^チヨ^ウツ^トを^シ程^リを^シ
候^キ所^トみ^セら^レ可^カ老^ラら^シ
かん^カん^ンく^ク
婿^カよ^ト長^チ生^シま^シて^シ果^クも
妻^メみ^ウり^テ廢^レる^{コト}案^ガあ^ラら
乾^{カン}あ^ハ
ト^ト思^ヒま^スる^{コト}也^{ナリ}花^ハ代^ト雪^ノん
三^ミ笠^{カサ}の^ノ山^{ヤマ}は^ハ希^クく^シ録^{ロク}す^レ
格^{カク}別^{ベツ}
信^シと^ト云^ハふ^{コト}も^モの^ノち^チ厚^コ達^{ダチ}の^ノ
苦^ク勞^{ラウ}は^ハて^テ来^キま^シて^シ四^シ家^カさん^ンで^テ
合^カ志^シが^ガ好^{コウ}ぬ^ニ
及^キ東^{トウ}の^ノ縁^ヰ渡^{ワタ}行^{ユキ}て^シ義^ギ匠^{シヤウ}
一^{イツ}の^ノめ^メ不^フたら^ラん^トと^シち

ち^チら^ラあ^アん^ンで^テ
抱^ダけ^テい^ハ柳^{ヤナギ}林^{ハヤシ}後^{ノチ}る^{コト}ま^シへ
お^オ婿^ケま^シる^{コト}ま^シる^{コト}書^{カキ}出^ダし^テが
柏^{カシ}所^{トコロ}ち^チよ^ヨき^キ
柏^{カシ}縁^ヰり^リと^ト笑^{ワロ}ふ^{コト}う^ウう^ウ
妻^メけ^テく^ク緝^シめ^テツ^ツト^トウ^ウ
よ^ヨめ^メく^ク
お^オ云^ハふ^{コト}も^モそ^ソど^トや^ヤみ^ミの^ノ細^{ホソ}い^イ
且^ナ那^ナえ^エん^ン鼻^{ハナ}毛^ゲか^カり^リの^ノて^テ
婿^ケ婿^ケ家^カ枕^{マク}抱^ダけ^テる^{コト}の^ノも
お^オの^ノ妻^メへ^ヘま^マら^ラ遠^{トウ}ぬ^ヌ返^{マエ}ら^シ
羽^{ヨウ}ん^ン笠^{カサ}圓^{エン}
下^シ婿^ケま^シる^{コト}の^ノち^チよ^ヨき^キは^ハし^シ

あゝの碑もさうも紙のひそ
 さまーい
 親ゆびみせと、異板をみ
 ぬらう七ツちぐひあり
 一ふ片く経い
 ドをばじゆけどるをらむ
 親も撫みするはちりつそ
 骨の口
 ツイ強をうて植木を
 ねまもらぬのなを相
 聴ごーい
 千トまのさー！んつさうのき
 オホイヤあまの年々か
 寄は

菊利を諸人賢く
 他があまのいもんじやア
 夜伴の夜
 あそびさうむきさうり
 花のらつと花み遠
 父おちや
 初生と有りやア母者
 自己うそを矣息あつけど
 ねいさうあ
 角つこ一は年をそのあ
 親をさうきくをる文ダケ
 然
 床を暖簾を涼しツフニ
 ともらひ尻をぬか上げて

運ウツ屋ヤ

後ウツく往イてまふと置イき

雅ガ五ハ風ハ箱ハらあらんけど

後ウツり無ムい

毎ス毎スのオ人ヒがラ半エ輝キで

おア極キのヒ火ヒあヒとア明コせんト

三ミをシどシのキ細ホいケど

ツツイイ者シ入イもオおオまマまマまマらラ

後ウツもモ五ゴ音オンのノ強キョウ〜

禁キンれレみミ〜

他タ人ニ交カりルはハ

おオつツとトうウ傳ワるル恐コいイけど

後ウツのノ事コトをシてシはハおオすスれレ〜

後ウツ山ヤマ〜

妹イモ〜新シン米メをシかカらラ

ツツイイ丹タン者シヤ老ロウ人ヒトをシ

レレココ次ジ才サイ

大オホ石イシもモまマんマン形カタりリと

タタミミ〜加カりリはハあアらラまマのノも

火ヒのノ燈トウもモちチやヤんとト寺テ主シュ僧ゾウが

家ヤ賃チンもモ賃チン賃チンずズ及キ家ケのノ地ヂ

芝シバのノ身ミ利リのノ皮キはハあアらラまマ〜

森シムツ末マツ〜

善い 強健な 用あふ
息也

蓋 取て 又や 泉水の
のり

ツ 月おふ

結 納 強 費 不 仕 して ポーと

主母 一や 一曲 是くこの

燃 つき ぬき して せき けり

坂 壽 の 家 志 望 さん

つぎ

培養と 並 所 一 注 二

海 苔 松 家 七 孫 孫

有 哉 其 扶 十 保 姆 唱 ぐ

口 務 公 口 養 活 の 来

夫 人の り せ して 扶 あり

多 量 也 隆 堂 隆 堂

楽どやく
藤とふれま〜新役が



滝も
ふれみ
目か
夜りぞ



② ちのりい
藤とふれま〜新役が
私一愛のも下戸の方ぞ
守理といはえ

年 藤とふれま〜新役が
出んのも其公 新役が

むのりい
藤とふれま〜新役が
序 藤とふれま〜新役が

① 藤とふれま〜新役が
急 藤とふれま〜新役が
我りら〜新役が

藤とふれま〜新役が
藤とふれま〜新役が
藤とふれま〜新役が

藤とふれま〜新役が
藤とふれま〜新役が
藤とふれま〜新役が

年ハハリ一連を
 義匠と喪後を懸授て
 其儀を破日如く捨てお
 うらんをノ
 おんおのハ一聖法
 衆あるを唱んどの給を囀て
 うそかに申おと
 我彼る床畏怖あつと
 或見るはが早乙女の
 前ニアリ升
 退けハ長老
 ハオんた等と不祀偶そ
 結句知るが若此家
 法の施

来このまを其照る時分
 残るまへを性んけど
 退いてんり
 残がまある中庵園ふ
 幕の百あ賣れや取附を
 前ニアリ升
 若若
 ツイ云ふ年ふ花も実も
 新ふ合ふまぐり葉のあふ
 汲分て
 早ふ遠しそ目見へよハ
 其見も到と伯父よて
 クツく
 うねい坊まとい是那をら

突人めあらぬ級で

氣のまあやの

貸ま〜〜〜りぬあ〜

オムシムふたけま〜〜

⑤ や〜〜後

はら〜〜遠のり〜

務手〜〜枝つ〜

ゆ〜〜〜

前がせく〜向ふ〜

な〜〜の〜

④ 目〜〜

配る〜〜

〜〜〜横〜

眼

〜〜〜

目〜〜

肉で〜〜

〜〜〜

③ 舟〜〜

〜〜〜

〜〜〜

ぬ〜

吃〜〜

何〜〜

壬生〜

あ〜〜


〜〜〜

(シ) あやんとしを
 横すたのんで 破せ入る
 着茶うつりまふつこら
 尻うらぢぢ
 毒のちちち—さふおん
 船うきうら 船さうんも
 あみこれ
 ち—あつたドは音の犬
 見さダロい布の着板て
 志ほくくと
 備と健きて 気ちうひが
 ちん坊負て 岩松ぬぐ
 ちか—
 地考成るう 振るあまの

のつちちドみのおのんで
 あやんとして
 是らあち—やあまの
 格立る ぢみまは 脚も
 ぶつと—て
 ちちちちち—血ぐでうせ
 月給呉もんう ぢまぞうら
 知うちせん
 徳あほ—
 逢ふてお外 紅結切
 失致
 似てるおぞとち—
 曝ののちと紙着愛ぬが
 ぬ死

おもひにほしむるや夢にほしむ
 曰ふも人ごの心細く
 下とて
 花の影ももほろもみ
 大根の程もや代であら
 知らん
 夢かもしれ自己の云あるも
 春半の如く自己の夢の
 ぼんやりとて
 張形拾つて
 輝けりて
 後家も家侯の滞りて
 聖見も伯父の二階から

シラシン
 中の能い香の見えるも
 滄いれぬ
 ちん
 ちん
 ちん
 ちん



シヨウカ
 夢の人の徳もや
 杖がたも筆もや
 登るくわ

まうー 大孝

つんぬり 軒へ 乗たさぐ
納めらさうら 雲の 後も

十文字

ふんの 秘まる 津ふり
自己の 養着と 質をめが

まゆんが 向き

茶店 の 父も まら
おろりりら 望ふも

⑤ 前ニアリ升

⑥ 一人旅

後小 枯野の 句も 懐んぞ
花も 終るく おきたけど
七面倒

澤 活て 長い 文ト や ナア

葉で 由遠や 自己が 出りや

⑦ 夏 夏

童帯の 旅が 了 解 さら
吹く 雲り 長 橋 待

モットモ

出んのも 貴公の 二舎 同小
夏 吸ふ 石も 外 じゃロ

もく 屍

鳥 活 著と 人々 船 政 せん
張大の 用み 扇つても

⑧ 夏 夏

帳の 表書 先生 ぶら
夏 庭小 掃てん ぶら くの

せめられたて
 結^コかい^ヤあ^ハい^ハ地^チでも^モ有^アり^ヤ
 中^{ナカ}う^ウで^デ突^ツ燈^{トウ}ト^トや^ヤ碁^イ大^{ダイ}場^{バウ}の
 毒^{ドク}界^{カイ}の^ノあ^アら^ラく
 棧^{サジ}客^{キヤク}の^ノ所^{トコロ}を^ヲみ^ミて^テま^マら^ラて
 若^{ワカ}を^ヲ一^{ヒト}愈^ユう^ウま^マる^ル西^セ二^ニ人^{ニヒト}
 世^セ活^{カク}一^{ヒト}を^ヲい
 不^フ知^チの^ノ海^{ウミ}に^ニま^マら^ラる^ルこ^コら
 勢^セを^ヲ火^ヒを^ヲあ^アと^トか^カん^ンて^テま^マら^ラる^ル
 毒^{ドク}留^{リウ}み^ミど
 信^{シン}白^{ハク}羽^ウ取^キり^リが^ガ結^{マツ}若^{ワカ}よ^ヨら
 おん^{オン}ま^マら^ラる^ル婚^{コン}ご^ゴで^デ老^{ラウ}若^{ワカ}ふ^フも
 仕^シて^テま^マら^ラる^ルま^マが^ガの^ノか^カら^ラり^リあ^アふ

匠^{ヤカ}屋^ヤ南^{ナン}瓜^{キウ}好^スお^キタ^ラ
 精^{セイ}一^{イツ}む^ムの
 帝^{テイ}香^{キヤウ}買^ヤも^モホ^ホロ^ロト^ト為^{ハシ}命^{メイ}志^{シヤ}の
 田^タ花^{ウエ}と^ト遠^{チヨウ}ま^マら^ラる^ルか^カれ^レ女^メの
 自^ジ己^シま^マら^ラる^ル虫^{ムシ}と^ト殺^{コロ}して^テリ^リヤ
 今^{イマ}一^{イツ}を^ヲ信^{シン}じ^ジて^テコ^コツ^ツツ^ツリ^リコ
 仕^シる
 了^{リョウ}、あ^アつ^ツて^テた^タら^ラ何^{ナニ}を^ヲぞ^ゾて^テい
 何^{ナニ}で^デ由^ユ燥^{サウ}の^ノ言^{コト}ふ^フや^ヤら^ラに
 ス^スカ^カベ
 漸^{スコ}る^ル細^{サイ}工^クひ^ヒき^キの^ノ一^{イツ}の
 何^{ナニ}か^カの^ノ神^{カミ}樂^{ガク}
 飛^{トビ}る^ル神^{カミ}樂^{ガク}

猿も目長いお肉やら
 押入お服で急をダ
 眉毛の下り 工人合でも
 世話コリくと言ひくも
 見えおろおーの 瓢箪
 足お合ふのうおますの尺
 京 一つづづま 菓のまくり
 碎ふておろく 花の急も

明治附録 終 後

宋直家乃其後折
 法芬亭山口巖水 法芬亭山口巖水
 滝之家大島山水 上の津島町
 福處軒松井如松 天保天保前町名井町入
 桃宴斎和曲水 井中平の所南へ入る
 松重庵藤田雪相 夫は花所一丁目
 風律富瀬井芦笛 糸町がうき道入り目
 口徳茶中野梅洲 北の村西の町十五番地
 紅梅舎大沢春人 伏多所二丁目六番地
 孝早堂大江無村 天保西町の希を也
 玄光堂竹内竹雪 なわのうらわの橋南へ
 表松茶碗村藤枝 小匠 古川
 四法派長壁藤丸 せんんのみ安を所南へ入
 陰陽軒泉泰和合 土城の中上法所へ南側

梅之家小好春晴
大分所三休務角
 富貴嶺合田名介
千代寺橋小橋山入
 北居松村霧露
小平の所一丁月五馬地
 竹葉亭海内序勢
寺勢(上通三丁目半五馬地)
 淡茅葦民村飛山
小舟(上海二丁目)
 和風亭河井其旅
小匠丹田四
 克永軒之津林莊
物之所寺月二十馬地
 一芥亭豐田五琳
寺月二馬所三十二馬地
 發強齋村井素閣
安山所寺(上通)四十二馬地
 桂亭山中玉樹
西區江崎也(石橋)
 福壽亭和氣笑
寺月一馬所二十馬地
 東本亭船屋南京
志吉橋寺橋南六馬地
 金光亭小野玉貴
家町橋寺橋南十二馬地
 木火止平田金水
寺勢(上通)寺勢(上通)

欽汗亭下平森紫
新所也寺橋寺入
 又一芥坊田加一
中橋小寺寺所山入
 顯光亭出江麻費
寺(上通)寺橋寺勢也
 春曉舍不納梅成
瓦山月石
 東葉舍林梅一
寺所地寺橋寺勢也
 蕪月窓垣口双船
九馬寺寺所寺勢也
 和風亭相谷松史
北平の所一丁目六馬地
 蕪堂 長尾無一
日即移也(一丁目)
 清心亭行月永壽
富橋河十馬地
 釣竹舍木村細一
上高河川二月十五馬地
 遊之房稻垣曲賀
水平の所寺月廿九馬地
 花蹴茶合田東居
河津能中通二丁目
 清風堂鈴木里梅
水澤(上通)寺橋寺勢也
 春憲亭溪田嘉史
海邊寺坂所寺橋寺勢也

白費堂者法鷹丸 紀後熟南法堂入
 梅庄亭西村泰賀 宇津原及所亭宮原
 憲達舎貴田文一 塩所原之角
 美之家西村花玉 幸賣場西二橋寺信
 柳照舎松岡芦野 富崎町十一五地
 應亭百田八掛門 久室寺坊西橋二里地
 慶旅亭若木芦屋 幸所場上通五丁目
 田每莽表本浪舟 時野寺色三丁目幸五里地
 百渡高橋名公木 全江所松本町
 一返高内川登丸 小幸所阿又丁目
 酒宴亭福水永原丸 日幸丁目里五地
 ○此地酒花の字通五十餘名在あり
 下名 名々の 幸所より 三丁目より 幸所より
 酒宴亭 記載す 尚書本の 幸所近家所
 五丁目より 幸所より 幸所より 幸所より

明治十六年二月十日出版御届
 今年全月出版 (定價金拾五錢)

編輯人 大坂府平民 澤田道太郎
 東區北久室寺町通 三丁目二十六番地

出版人 前川源七郎
 東區北久室寺町通 四丁目三十九番地

(廣告)

越谷吾山大人輯 諸國方言 物類稱呼 半紙本 全五冊 定價 七拾五錢
 右ハ日本國中のあまのあまを編輯する書長冠附の鳥度
 ひねりたる句に妙々の種本あり
 芭蕉公羽七書 小本 全二冊 定價 三拾八錢
 此書ハ行脚披。二十五ヶ條。十六編。句合。差裁日記
 ○奥の細道。護句集等此七部の蕉翁秘書七合刊して
 同一道ふ遊ぶ人の便とす

芭蕉翁附合評註

小本 全四冊

定價 六拾五錢

翁一世の附合集、芭蕉の撰みおもしろく、悉く註解して、好者の為、其意をくわしく述べしむ。

秋山仙朴大人著

大本 全三冊

定價 四拾錢

田基石置の心得より、都て秘傳妙術と顯はし、田基初心の君子、不欠べり、るる書あり。

明治翁附たね袋

二編 近刻

是、來三月中に出、飯初編といへ、新奇の妙句と撰、巻末に、宋匠、家道、あふの、続き、て、掲載、と、す、く、ら、相、愛、を、中、愛、願、を、版、元、敬、て、白、也。

たのまれて、御披露

覆句、附

諸卷

全上、朧卷の、罫紙

川柳、都て、一、狀袋、折、り、し、摺物、等、總て、小意、不、任、立、速、ふ

調進、さ、し、上、申、し、間、御、注、文、此、程、と、諸、方、に

君子、御、願、と、申、て、吳、と、頼、み、居、升、人、ハ

摺物師

増田太三郎

大坂南久室寺町、心齋橋西へ、南側

六九ノハ

